

# 令和7年産 飼料用米(みなちから)栽培ごよみ

JAふくおか嘉穂本所営農センター ☎24-7093  
飯塚普及指導センター ☎23-4154

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!! 生産履歴は必ず記帳しましょう。

月	5			6			7			8			9			10			11													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中												
生育期間	は種の準備			は種			育 苗			田植			活着期間			有効分けつ期			無効分けつ期			幼穂形成期			出穂期			登 熟 期 間			成熟期	
水管理							間断灌水			中干し			間断灌水			浅水			間断灌水			落水(走り水)										
主な作業	種子消毒①			基肥 代箱田 か施植 き薬② (6/10 5/20)			除草剤処理③			中干し 中干しを始める時は、通し水 田植後30日目頃から軽く 乾燥が長く時は、通し水 をすする。			穂肥一回目(8/6頃)			穂肥二回目(8/16頃)			稲こうじ病対策④			出穂期 イネカメムシ対策			※落水時期 収穫一週間前くらいに 落水をする。(水管理を 十分におかないと 遅くまで落水期をのぼ すことはできない)			収穫 → 収穫目安 黄褐色割合率80%以上 初水分20%以下				

**病害虫、雑草防除基準**  
 ・種子は10a当たり2.2kg～2.5kg準備する。  
 ・播種量：150g/箱(乾籾120g)

○種子消毒-①

名 称	希釈倍率	使用方法
ベンレートT水和剤20	200倍	24時間浸漬



○箱施薬-② 次のいずれか1つを選択

名 称	使用量	使用時期	対象病害虫
ブーンゼクテラ箱粒剤	1箱あたり 50g	播種時 (覆土前)	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、 イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルスロトル箱粒剤 ※紋枯病に効果あり		移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、 イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病

○除草剤使用基準-③

種 類	名 称	10a当たり使用量	使用時期
粒剤 (※田植同時処理可)	ラオウ1キロ粒剤	1kg	田植時～8日 (ノビエ2.5葉期まで)
	エンペラー1キロ粒剤		田植時～10日 (ノビエ3.0葉期まで)
	オイカゼZ1キロ粒剤		田植時～10日 (ノビエ3.0葉期まで)
フロアブル (※田植同時処理可)	ラオウフロアブル	500ml	田植時～8日 (ノビエ2.5葉期まで)
	エンペラーフロアブル		田植時～10日 (ノビエ3.0葉期まで)
フロアブル (田植同時処理不可)	オイカゼZフロアブル	10パック	田植後5日～10日 (ノビエ3.0葉期まで)
ジャンボ	ラオウジャンボ	10パック	田植直後～8日 (ノビエ2.5葉期まで)
	エンペラージャンボ		田植直後～10日 (ノビエ3.0葉期まで)
	オイカゼZジャンボ		田植後5日～10日 (ノビエ3.0葉期まで)

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

**注意**  
みなちからは除草剤の成分「ベンゾピシクロン、メソトリオン及びテフリルトリオン」に対し、感受性が高く、葉害で枯れます。ラオウ、エンペラー、オイカゼZ以外の剤を使用するときは上記の成分に注意して下さい。

○補正防除

名 称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫
リンバー粒剤	3～4kg	収穫30日前まで	紋枯病
バリダシン粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	
モンセレンフロアブル	希釈倍率1500倍 散布液量60～150ℓ	収穫21日前まで	
モンガリット粒剤	3～4kg	収穫30日前まで	紋枯病、稲こうじ病
ゴウケツモンスター粒剤	3kg	出穂5日前まで (収穫45日前まで)	いもち病、紋枯病、 稲こうじ病、ウンカ類
スタークル豆つぶ	250g	収穫7日前まで	ウンカ類対策 使用時期は トビイロウンカの幼虫期 毎年使用時期が ことなるので「稲作情報」を 参考にして下さい。
トレボン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで	
トレボン乳剤	希釈倍率1000～2000倍 散布液量60～150ℓ	収穫14日前まで	

※紋枯病防除時期:幼穂形成期頃に散布することが重要です。

○イネカメムシ対策

名 称	10a当たり使用量	使用時期	備 考
エクシードフロアブル	希釈倍率2000倍 散布液量60～150ℓ	収穫7日前まで	出穂期に散布 (不稔籾対策)

○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策  
(生貝の捕殺・卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬期の耕起等)

スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) 対策	名 称	10a当たり使用量	使用時期	備 考
	スクミノン	1～4kg	移植後、但し 収穫60日前まで	水口、深いところ等タニシの 集まる所にスポット処理も有効

**注意**  
みなちからの育苗期間は20日程度になるように  
しましょう。また、播種時期を調整できず育苗期  
間が20日以上かかる事が予想される場合、緑  
化期までにナエファインフロアブルを散布し、  
状況によっては弁当肥をおこないましょう。

**田植え時期**  
 ・田植え時期を遅くすると、茎数が確保しにく  
くなるため、必ず6/10～6/20で植えましょう。  
 ・極端な疎植は避けましょう。

○補正除草剤

名 称	10a当たり使用量	対象雑草	使用時期
クリンチャーバスME液剤	1000ml/ 水70～100ℓ	ノビエ 広葉雑草	田植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで
フォローアップ1キロ粒剤	1kg	カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日～ノビエ5葉期 但し収穫60日前まで
クリンチャーEW	100ml/ 水25～100ℓ	ノビエ	田植後20日～ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで
クリンチャー1キロ粒剤	1kg	ノビエ	田植後7日～ノビエ4葉期 但し収穫30日前まで
2・4-Dアミン塩	80～120g/ 水70～100ℓ	水田雑草 (イネ科を除く)	有効分けつ終止期～幼穂形成期前 但し収穫60日前まで
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500～700ml/ 水70～100ℓ	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日～ 収穫45日前まで
バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3～4kg		田植後15日～ 収穫45日前まで

雑草が残った場合

○稲こうじ病防除-④ ※フルスロトル箱粒剤使用の場合や昨年発生が多  
かった場合は必ず稲こうじ病防除が必要です。

名 称	10a当たり使用量	使用時期
Zボルドー粉剤DL	3～4kg	出穂20日前 (「穂肥1回目」の時期)
ドイツボルドーA	希釈倍率2000倍、散布液量60～150ℓ	
モンガリット粒剤(紋枯病にも効果有)	4kg	

**注意**  
Zボルドー粉剤DL、ドイツボルドーAは、出穂10日前以降に  
散布すると穂に葉害が出ます!! 出穂10日前以降は散布しな  
いで下さい。

稲こうじ病は、孢子が土壌に落ちて越冬します。  
 ・出穂20～10日前に薬剤散布し、菌の感染を防ぎます(予防散布)。  
 ・症状が見えてからの散布は効果がなく、葉害の危険があります。

○施肥基準 (全層施肥) (kg/10a)

肥料名	基肥	穂肥1	穂肥2	成分量
ベスト444	55	—	—	N - 14.0 P - 7.7 K - 7.7
硫安	—	15	15	N - 13.5 P - 2.25 K - 2.25
ハイエムコート30	45	—	—	N - 13.5 P - 2.25 K - 2.25

※基肥で側条施肥を行う場合、ベスト444の施肥量は、40kg/10a(全層施肥  
基肥N量の75%)。ハイエムコート30の施肥量は、40kg/10a(慣行全層施  
肥全N量の85%)。  
 ※穂肥1回目の施用時期は出穂前23～20日頃(幼穂1～2mm)です。  
 ※穂肥2回目の施用時期は1回目の「7～10日後」です。  
 ※水稲育苗箱全量施肥を行う場合は、育苗箱まかせN400-120を1箱当たり  
1.2kg入れ(箱底施肥)、田植え時に10a当たり18箱使用で調整する。  
 葉色が濃くても穂肥は基準通り施用して下さい。